

(2022年11月掲載)

「研究」再考(4) ～研究の7W3H～

前回は「先行研究から考える」という方法によって、研究を形にしていくこと(論文における「問題と目的」部分を明確化していくこと)について書きました。今回は、最終回ということで、研究をデザインする際に気をつけたい注意点(研究の全体像を描き、具体的で実現可能性の高い計画を立てるために押さえておきたいポイント)について書きたいと思います。

7W3Hとは、「When(いつ)」「Where(どこで)」「Who(だれが)」「to Whom(だれに)」「with Whom(だれと)」「What(なにを)」「Why(なぜ)」「How(どのように)」「How much(いくらで)」「How many(どのくらい)」の頭文字で、情報を正確に伝えるために必要な要素と言われています。研究においても、この7W3Hは大切な情報であり、明確にされるべきものだと考えます。なぜなら、研究の7W3Hは、そのまま研究のデザインに直結する情報だからです。

上記7W3Hを研究(調査)に当てはめると、それぞれ「調査時期」「調査場所」「調査者」「調査対象(調査協力者)」「共同研究か否か」「調査内容」「調査目的」「調査方法」「調査費用(謝金)」「調査回数・時間」と言い換えることができるかもしれません。(そして、その情報が明らかになれば、論文における「方法」の部分が書けそうですね)

あなたの研究の7W3Hは？

この問いは、あなたの研究のデザイン(調査の設計)を再考・自覚するためのものです。同時に、論文として形にするための次なる一歩(方法の部分を考えること)でもあります。それぞれについて、シンプルかつ明確かどうか確認すると良いでしょう。

ちなみに、7W3Hは「研究プロジェクト」や「論文投稿」に当てはめてみることも可能です。期限を決め、役割を分担し、着実に研究成果を出すための手段として、7W3Hは有用であると思います。もし良かったら試してみてください。

全4回を通して「研究」というものを再考してきましたが、いかがだったでしょうか。①「自分にとって研究とは」(研究の定義)、②「自分にとって良い研究とは」(研究の意義・価値)、③「自分の研究の先行研究とは」(研究のポジショニング)、④「自分の研究の7W3Hとは」(研究のデザイン)、それぞれ折に触れて考えてみてください。研究は普段・不断の問いが大事。定期的な「研究」再考を！

(大阪大学キャリアセンター 家島明彦)